学生・教員・図書館職員の協働による学修支援の取り組み

平成２７年３月１３日（金）

徳島大学附属図書館　亀岡 由佳
徳島大学附属図書館　佐々木 奈三江
徳島大学附属図書館　岩野 宏治
徳島大学総合教育センター　吉田 博

目次

- はじめに
  - 徳島大学の基本情報
  - 徳島大学附属図書館の施設
- 徳島大学附属図書館における学修支援の取り組み
  - 直接的学修支援：Study Support Space(SSS)
  - 間接的学修支援：学習イベントの実施
    『レポートの書き方講座』『先生のコバナシ』
- 学修支援のさらなる充実を目指して
  - 今年度（2014年度）実施した改善策
  - 今後の課題
  - 徳島大学の学修支援に関する取組み
  - 図書館で学修支援を行う利点
  - 学生・教員・図書館職員の協働による学修支援の利点

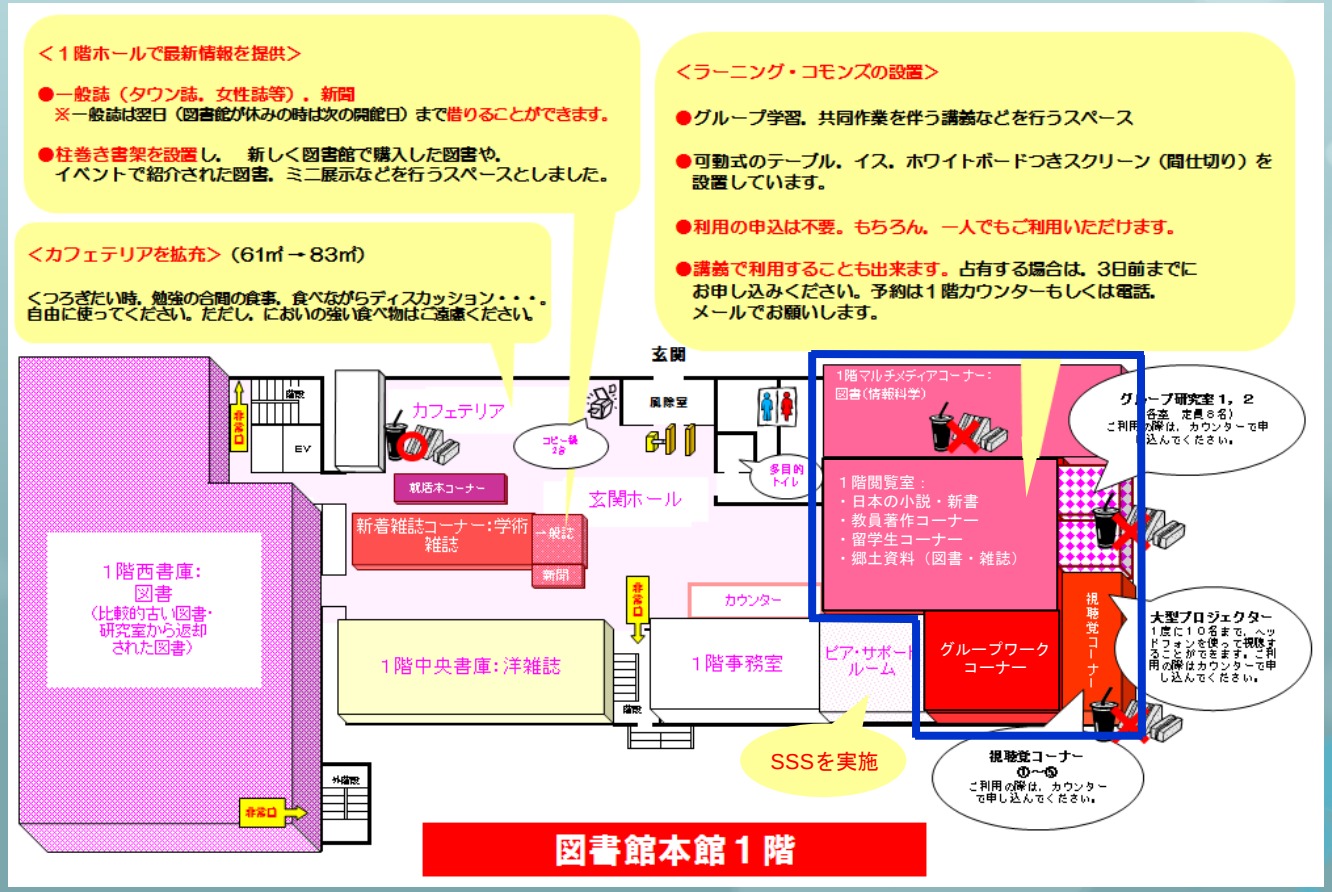
はじめに

徳島大学の基本情報

- キャンパスは２つ
  - 常三島と蔵本。それぞれに図書館がある
- 学部は５つ
  - 総合科学部，工学部（常三島キャンパス）
  - 医学部，歯学部，薬学部（蔵本キャンパス）
- 学生は約7,600名，教員は約960名
- 図書館職員
  - 本館　定員　10名，有期雇用　12名
  - 分館　定員　　5名，有期雇用　　6名

徳島大学附属図書館の施設

2009年	耐震改修によりリニューアル・オープン
	１階をコミュニケーション可能なゾーン，２階をサイレント・ゾーンとゾーニング
2012年1月	１階のレイアウトを変更し，「ラーニング・コモンズ」として運用開始
2014年12月	１階のレイアウトを変更し，ディスカッションしながら自由に学習できるスペースを拡大

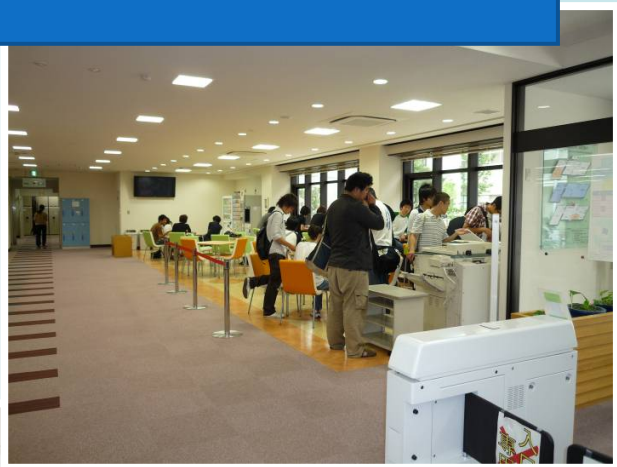


2014年１2月に，1階の書架を2階に移し，ディスカッションしながら自由にグループ学習ができるスペースを拡大。プレゼンなども可能。

グループ研究室（2室）

マルチメディアコーナー（１階）
周りには関連書籍も配置

カフェテリアは玄関入ってすぐの場所
2012年1月，座席を32席→48席に拡充



2012年１月，カフェテリアのとなりに，
一般雑誌と新聞を読むコーナーを設置

１階に視聴覚コーナーと
視聴覚資料を設置

徳島大学附属図書館における学修支援の取り組み

徳島大学附属図書館の学修支援

- 直接的学修支援

  Study Support Space(SSS)・・・学習相談窓口

- 間接的学修支援

  学習イベントの実施

  - 『レポートの書き方講座』
  - 『先生のコバナシ～実は私こんなことをしているんです～』

直接的学修支援

Study Support Space(SSS)・・・学習相談窓口

Study Support Space(SSS)

- SSSとは
  - 教員・大学院生等が，図書館1階ピア・サポートルームで常設の学習支援を行う企画
  - 学生の学習に関する相談に対し，アドバイザーの教員・大学院生等が対応
  - 2013年4月12日よりオープン
  - 場所は，図書館で空き部屋となった事務室を流用
  - 学びサポート企画部による運営
    （2014年4月から徳島大学公認サポート系サークル）

学びサポート企画部

- 活動理念
  - 大学生の日々の学習における躓きに対して，学習支援を行うとともに，学習をするために必要な基本知識・技能を習得する場や機会を創ることで，大学生の学習スタイルの向上，改善を行う
- 徳島大学公認サポート系サークル
- スタッフ構成
  - 学生3名、教員１名、図書館職員3名（2015年3月現在）
- スタッフの仕事
  - SSSの運営
    （アドバイザーへの協力依頼，時間割の調整，
    相談内容の記録・分析，SSSの広報活動）
  - 学習イベントの企画・開催
  - 成果発表

カウンター横に設置した
時間割表

SSSを開設するまでの道のり

- ～2012年１月　人的支援や学内の学習支援機関との連携は不充分
  - 学習サポートスタッフ　→　人件費確保できず
  - 学習支援室との連携　→　打診したが不調
  - ボランティアについて教員に相談
    - 「ライブラリー・ワークショップ」誕生→読書推進活動

- 2012年1月　平成２３年度全学FD大学教育カンファレンスin徳島に参加し，繋ぎcreateなどの学生団体を知る
  - 繋ぎcreateとは，徳島大学内でピア・サポート活動を行う学生・教職員によって構成された自主的なチーム。その中に複数の企画チームが存在している。
  - FD委員会の下部組織的存在であり，活動費用は学長裁量経費により支弁されている。ただし，学生への報酬は無い。

- 2013年1月　スタディレスキューWeeeeekの開催 (1)
  - 繋ぎcreateの企画により，後期試験前の2013/1/21～25に実施
  - 「図書館1階のラーニング・コモンズを利用して、学生が学習の疑問点やわからない所を教員に直接質問することで解決し、学習内容を定着させることができる相談窓口を提供するもの」
  - 図書館の業務としてではなく，職員有志で協力
  - NHKの取材で，認知度が高まる。図書館内でも評価が上がる。
  - 常設できないか？→SSSへ

SSSアドバイザー

- 教員11名、図書館職員1名、大学院生5名、学部学生2名（2015年3月現在）
  - 教員：ボランティアとして協力
  - 学生：2014年3月まではボランティア

2014年4月から「学習支援アドバイザー」として有償（学長裁量経費）

- 「学習支援アドバイザー」は履歴書と教員の推薦書を提出の上，面接
- SSS以外の学習支援業務（ブクログやリポジトリの登録、「授業サポートナビ」(パスファインダー)の作成、図書館のイベント補助等）も行う

図書館も経費を確保し，
組織的に人的支援の体制を整備

ＳＳＳ学習支援内容・アドバイザー（12・1・2月）

2014年12月1日現在

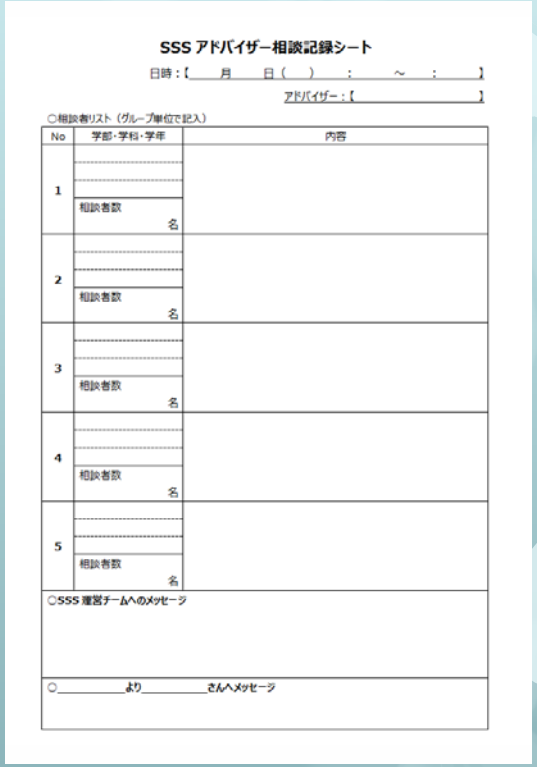
時間帯	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
14：00 ↓ 15：00	物理学・その他何でも 小山 晋之 先生	レポート・情報科学、Word、Excel、PPT 金西 計英 先生			数学・情報・中国語・電気電子 王（おう） 磊（らい） さん
15：00 ↓ 16：00	数学 大沼 正樹 先生	数学・情報・中国語・電気電子 王（おう） 磊（らい） さん	レポートの書き方・読書の楽しみ方 出口 桜子 さん	Word、Excel、PPTの使い方・中国語 林（りん） 琳（りん） さん	心理学 松浦 可苗 さん
16：00 ↓ 17：00	物理学・レポートの書き方 斉藤 隆仁 先生	Word、Excel、PPTの使い方・中国語 林（りん） 琳（りん） さん	社会科学のレポート 久保 宏和 さん	英会話 佐藤 周平 さん	線形代数・勉強の仕方 吉田 博 先生
17：00 ↓ 18：00	英語・留学相談 福田 STEVE 先生	数学 大渕 朗 先生	文献の探し方 佐々木奈三江 さん	物理学・天文学・レポートの書き方 古屋 玲 先生※1	化学 森賀 俊広 先生
18：00 ↓ 19：00	英語学習・留学相談 坂田 浩 先生※2		物理学 日置 善郎 先生	生物学・生化学/学習相談・教職相談 佐藤 高則 先生　濱地 由衣 さん	

※1 木曜日 古屋 玲 先生の「物理学・天文学・レポートの書き方」に関する相談対応は、17：15 開始とさせて頂きます。ご注意ください。
※2 月曜日 坂田 浩 先生の「英語学習・留学相談」に関する相談対応は、対応日が限定されています。専用掲示板等で詳細をご確認ください。
★SSSを利用する場合は、①ピア・サポートルーム前の時間割掲示板、②徳島大学附属図書館ホームページで最新の情報をご確認ください。

気軽に質問しに来てくださいね！！

Study Support Space

学びサポート企画部



SSS アドバイザー相談記録シート

日時：【　月　日（　）　：　～　：　】

アドバイザー：【　　】

○相談者リスト（グループ単位で記入）

No	学部・学科・学年	内容
1	相談者数　名	
2	相談者数　名	
3	相談者数　名	
4	相談者数　名	
5	相談者数　名	

○SSS 運営チームへのメッセージ

○＿＿＿＿より＿＿＿＿さんへメッセージ

SSS時間割表（四半期毎に作成）

SSSの実績

ピア・サポートルームの様子

- 2013年4月～授業期間の平日に毎日実施

  実施日数：304日（2013年4月～2015年2月）

  ※2013年度：153日　　2014年度：151日

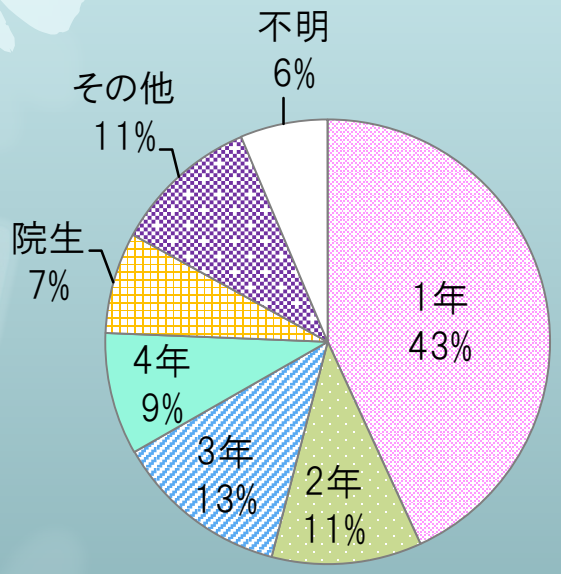
- 累計相談者数：746名（2013年4月～2015年2月）

  ※2013年度：352名　　2014年度：394名

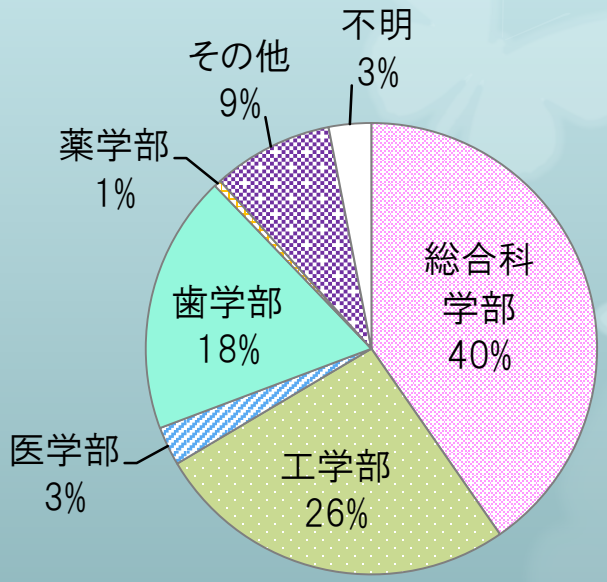
- 対応科目：数学，物理，化学，生物，英語，中国語，留学，

  レポート相談など

集計期間：2014年度
（2014.4～2015.2）

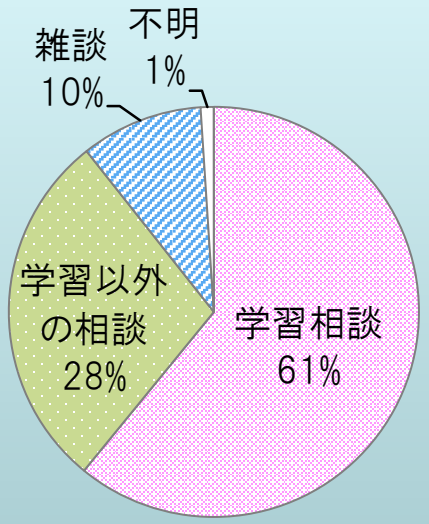


学年別相談者の割合

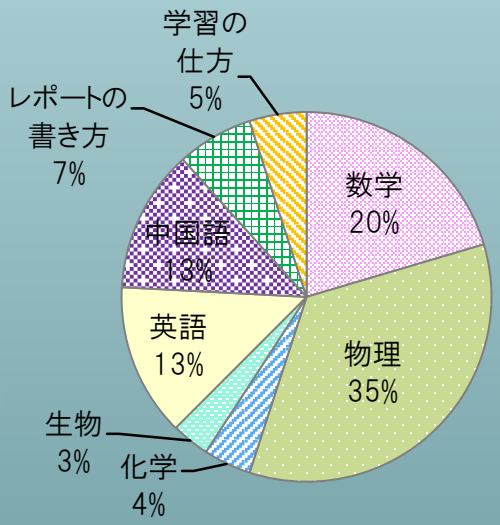


学部別相談者の割合

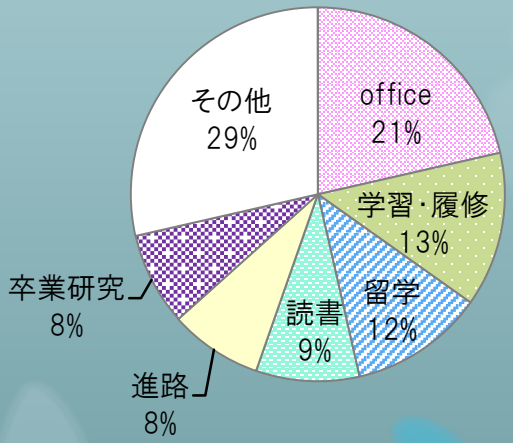
集計期間：2014年度
（2014.4～2015.2）



相談内容の種類別の割合



学習相談の
相談内容内訳



学習以外の相談の
相談内容内訳

SSSの評価

- アンケートの実施（2013年度に3回実施）
  - 7月：図書館アンケートの一環として来館者に調査
  - 8月：SSSアドバイザーに対してアンケートを実施 (2)
  - 11月：SSSに対するアンケートを館外を含めて実施 (2)
- アンケート結果
  - SSSの認知度：約6割弱
  - SSSのリピーター率：約6割（利用者の満足度は高い）
  - SSSで実施して欲しい支援内容（レポートの書き方，試験対策，大学での勉強の仕方，文献の探し方 など）

    ↑ 大学での学び方に戸惑っている様子がうかがえる
  - SSSを知った経緯，利用しない理由，実施して欲しい支援などについて
  - SSSアドバイザーにとっての意義とは？

⭘間接的学修支援

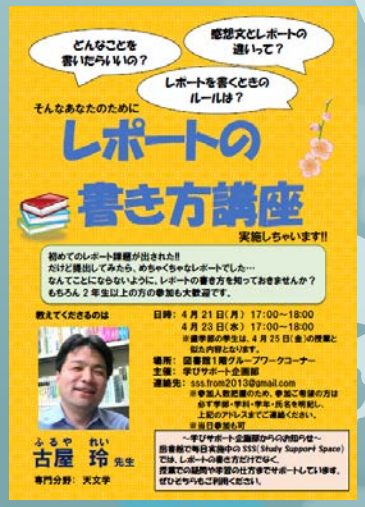
学習イベントの実施

- 『レポートの書き方講座』
- 『先生のコバナシ～実は私こんなことをしているんです～』

『レポートの書き方講座』

- レポートを書くときに注意する点を理解し、適切なレポートを書けるようにすることを目的として実施
- 1年生（工学部・歯学部）にレポート課題が出されたため、その対策として実施
- 開催日時：2014年4月21日・23日　各17:00～18:00
- 実施場所：図書館１階グループワークコーナー
- 講師：古屋玲 准教授

  （徳島大学全学共通教育センター）

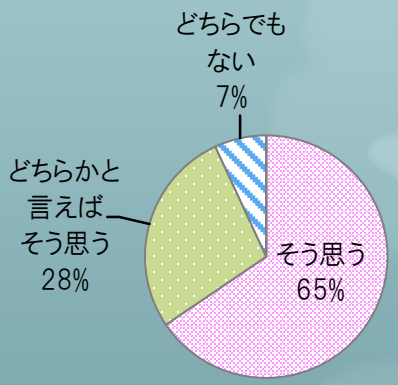


『レポートの書き方講座』の実績

（アンケート回答より）

- 累計参加者数は29名

  (1年生24名、2年生2名、3年生2名、4年生1名)
- 「レポートの書き方について理解できた」という意見が多く得られた
- レポート作成時に注意すべき点は理解できたものの、実際正しく書けるという自信を持てた学生は少数だった
- 本講座に対する満足度は高かった
- レポートを作成する際の姿勢についての内容が、強く参加者の印象に残ったようだった



大学生活に活かせる内容であったか？

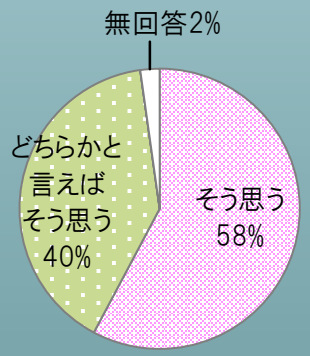
『先生のコバナシ ～実は私こんなことをしているんです～』

- 「レポートの書き方講座」のアンケートに「先生の研究について知りたい」という意見があった
- 大学で行われている「研究」について，その内容，興味深いところ，先生の想いなどを知ることで，大学における学習や研究に対する動機づけを行うことを目的として実施
- 各分野の教員が30分から1時間程度の時間で，自身の研究内容や研究に対する思い，興味深い点，取り組む姿勢などを語る
- 学びサポート企画部で話を聞きたい先生や学生から面白いと評判の良い先生を候補に挙げ，協力依頼を行う
- 開催日時：2014年6月30日～7月4日
- 実施場所：図書館１階ホール
- 発表の仕方：教員の裁量
  （PPT発表、講演、座談会、フリートークなど）

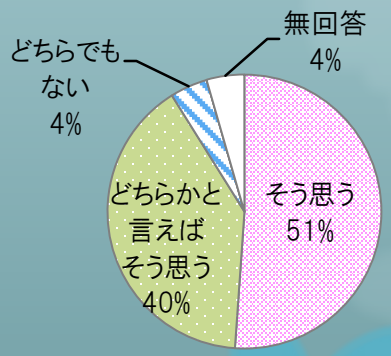
『先生のコバナシ』の実績（3）

（アンケート回答より）

- 累計参加者数は61名
- 「先生の行っている研究を知り，興味を持った」「全く知らない分野だったので、話がとても面白かった」「垣根を越えて学問をするということの重要性がわかった」といった感想が寄せられ，好評であった
- 本イベントに対する満足度は高かった
- 認知度が上がってきたためか，後半になるほど参加者は増え，最終日には最も多くの人が集まった
- 会場設営や広報等について、今後の課題も明らかとなった



新しい発見・気づきがあったか？



満足できる企画であったか？

学修支援のさらなる充実を目指して

今年度(2014年度)実施した改善策

- 学びサポート企画部
  - SSSに加え，学修イベントを実施
  - ピア・サポートルーム前に看板を設置
    （アンケートに寄せられた意見を参考に改善）
  - 学びサポート企画部の広報用パンフレット作成
- 徳島大学附属図書館
  - 経費を確保し，学生アドバイザーを有償化（人的支援体制を整備）
  - 学生アドバイザーの増員
  - 図書館に学習支援担当の専門職員を配置（運営体制の整備）
  - １階のレイアウトを変更し，ディスカッションしながら自由に学習できるスペースを拡大

今後の課題

- 企画の質の向上
- 広報面の強化（SSSや学修イベントの認知度を上げる）
- アドバイザーの充実
- ピア・サポートルームの改善
- 運営体制の安定化
- 教員との連携

徳島大学の学修支援に関する取組み

- 「徳島大学機能強化プラン」(4) に基づく教育機能強化
- 平成２６年度「大学教育再生加速プログラム」(5)
  テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）に採択される
  （94校が応募し，9校（国立大学は本学のみ）が採択）

学内で
アクティブ・ラーニングの必要性が
高まっている

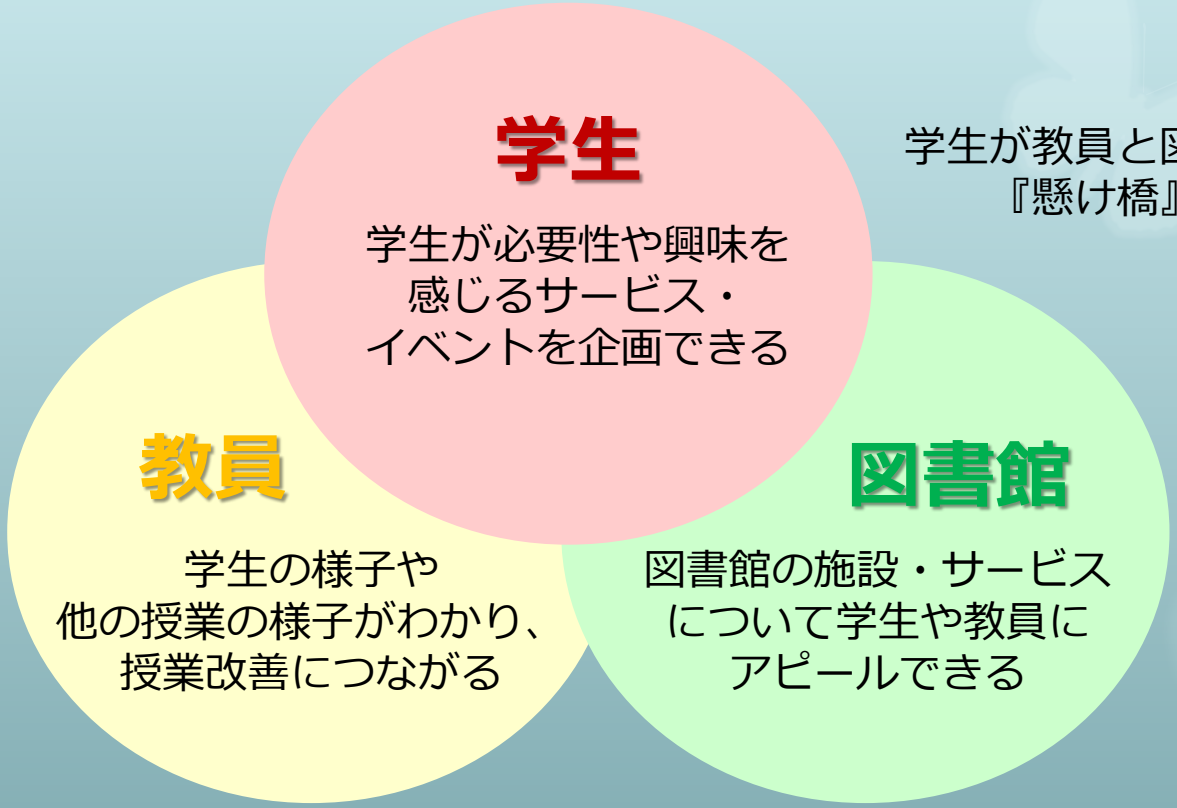
図書館で学修支援を行う利点

- 学生側
  - いつものわかりやすい場所で支援を受けることが出来る
  - 他の学生の学習の様子が見え，モチベーションが上がる
  - 学習に必要な文献がある
- 教員側
  - 図書館職員がサポートに加わることで，業務分担ができる

    （学生にとっては，職員は教員よりもハードルが低い存在・・・？）
  - 新しいタイプの授業ができる可能性がある

図書館の学修支援の充実 ➡ **徳島大学が目指す アクティブ・ラーニングの推進**

学生・教員・図書館職員の協働による学修支援の利点



学生が教員と図書館職員の『懸け橋』になる

それぞれが特性を活かし，補い合うことで，より大きな効果が得られる

参考文献

（1）「「スタディーレスキューWeeeeeK」を開催しました」，徳島大学附属図書館報：メールマガジンすだち，No.97，2013.2.19， http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/m-mag/back/097/97-8.html （参照日：2015.1.8）

（2）吉田博・佐々木奈三江・亀岡由佳・枝川恵理・斉藤くるみ「大学図書館で実施する学習支援の成果と課題ーStudy Support Spaceの実践からー」大学教育研究ジャーナル，11，26-37，2013

（3）「学びサポート企画部活動報告「先生のコバナシ～実は私こんなことをしているんです～」」，徳島大学附属図書館報：メールマガジンすだち，No.115，2014.8.21， http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/m-mag/back/115/115-6.html （参照日：2015.1.8）

（4）徳島大学機能強化プラン　http://www.tokushima-u.ac.jp/_files/00167932/kinoukyoukaplan2510.pdf （参照日：2015.1.9）

（5）大学教育再生加速プログラム　http://www.jsps.go.jp/j-ap/index.html（参照日：2015.2.26 ）